

(別 紙)

平成 30 年度 動物愛護管理功労者 大臣表彰の受賞者

受賞者	ナルミ トシカズ 鳴海 壽一 72 (歳) 新潟県在住  元 一般社団法人新潟県動物愛護協会副会長
功績概要	<p>○新潟県動物愛護協会において、リーダーとして活動。上越地域において平成 11 年から動物ふれあい訪問活動を始めるときに中心となって奔走し、ふれあい訪問活動の基礎を築いた。</p> <p>○新潟県動物愛護協会の副会長を 20 年間務め、会長を補佐しつつ、協会運営やゼロプロジェクト事業（猫殺処分ゼロを目指す）の推進のために役員の先頭に立って尽力してきた。</p> <p>○東日本大震災に際しては、上越地区の避難動物の受入れにあたり、中心となって尽力し、避難施設の設置等を行った。</p>

受賞者	ヤマウツリ チヅル 山移 千鶴 (75 歳) 大阪府在住  公益社団法人 日本動物福祉協会 南大阪支部長
功績概要	<p>○行き倒れの成犬を保護したことを契機に動物福祉活動を開始し、昭和 57 年に日本動物福祉協会に入会。豊中市を中心に草の根レベルの活動を立ち上げ、動物虐待防止キャンペーン、新しい飼い主探し、募金活動、バザーや啓発活動等を精力的に実施している。</p> <p>○平成 7 年の阪神淡路大震災における被災動物の救護活動においては、動物救護本部が設置運営する動物救護センターに保護された被災動物の世話と共に、全国から参加されているボランティアの活動が円滑にいくよう支援した。</p> <p>○平成 18 年には、元ブリーダーの劣悪多頭飼育問題に対して、発覚現場の調査や、大阪府や大阪府獣医師会等と共に犬たちの救護活動に関わり、府が用意した救護施設での犬の飼育管理、人獣共通感染症であるブルセラ症陰性の動物の譲渡に尽力した。</p> <p>○平成 13 年には、豊中市において猫不妊去勢手術助成金制度の創設に貢献するとともに、平成 24 年には、豊中保健所において官民協働で譲渡会を実現した。平成 29 度の不妊去勢手術助成金支給頭数は 1200 頭を超え、犬猫の譲渡頭数は 350 頭を超えた。</p>

受賞者	<p>ホソイド タイセイ 細井戸 大成 (62歳) 大阪府在住</p> <p>公益社団法人 日本動物病院協会 相談役</p>
功績概要	<p>○昭和55年に日本動物病院協会（後の公益社団法人日本動物病院協会）に入会し、同会が昭和61年に開始したCAPP活動（犬や猫とボランティアで福祉施設や学校を訪問する活動）に携わった。平成元年より中部日本地区ディレクターを務め、これらの活動の普及に尽力した。</p> <p>○平成5年から11年、平成13年から29年の長きにわたり、社団法人日本動物病院福祉協会（後の公益社団法人日本動物病院協会）の理事、専務理事、副会長及び会長を務め、同協会の公益事業を発展させた。</p> <p>○公益社団法人大阪市獣医師会の会長任期中に、高齢者が保護猫のミルクボランティアとなって子猫が乳離れするまでを手伝い、その後譲渡に結びつけるという制度（子猫リレー事業）を確立した。不幸な殺処分対象になっていた子猫の命を救うことにつながり、実績を上げている。</p>

受賞者 (団体)	<p>イワテケンジュウイシカイ 一般社団法人 岩手県獣医師会 (岩手県)</p>
功績概要	<p>○昭和58年から、岩手県や動物愛護団体と連携しながら、動物愛護週間行事を継続して開催し、動物の適正飼養の普及啓発や県民の動物愛護思想の高揚に貢献している。</p> <p>○平成20年以降の自然災害発生時には、岩手県災害時動物救護本部の構成員として、県内の動物救護活動に尽力した。特に、平成23年の東日本大震災では、動物救護本部の事務局を担い、会員の動物病院での受入れを積極的に行うなど、被災動物の救護・治療及び飼い主に対する支援等について中心的な役割を果たしてきた。</p> <p>○近年は、マイクロチップ普及啓発事業を実施し、個体識別の意義とマイクロチップの効果等について広く県民に普及啓発を行っている。</p> <p>○また、犬猫の遺棄の防止並びに地域猫活動の普及啓発及び推進を目的に、飼育犬猫並びに地域猫を対象とした不妊手術助成事業を実施し、人と動物が共生する社会の実現に寄与している。</p>